

奄美市世界自然遺産プラットフォーム 第5回公民連携会議

日時：令和4年11月20日（日）14：00～17：00@奄美市役所5階会議室

参加者（敬称略）

委員：久野優子、柴ヤスエ、須山聡、常田守、服部正策、濱田政信、久留ひろみ、

松山さおり、宮田夏弥、恵枝美、山下久美子

講演：鈴木英治（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター特任教授）

事務局：平田課長、中村補佐、河野係長、有川、神田、出口

**【須山座長挨拶】**

この日も5回目を数えまして、いろんな問題が出てきたり、あるいはそれに対する様々な解決に向けた提案が出てきたりしまして、大分軌道に乗ってきたのではと思っております。

とはいえ、今日を含めてあと3回ですので、今後、うまくまとめていかなきゃいけないかなという段階かと思えます。本日はこれから結構議論していかなきゃいけない外来種について、お話いただくために鹿大の鈴木先生に来ていただきまして、外来種に関する御講話をいただくということにしたいと思います。

これがきっかけになって、このプラットフォームの外来種問題、慎重にかつ大胆に取り

組んでいきたいなと思っていますので、皆さん、どうかそれぞれの見識を深めると同時に、有益な御提案を期待いたしております。

**【提言書修正案説明：久野氏】**

前回のプレゼンで、運営にかかる費用について指摘があった。市の財源を活用してほしいという内容ではあったんですけど、それだけに頼っているわけではなくて、民間資金やクラウドファンディングでも予算をとっていく。継続的に行っていかなきゃいけない事業なので、財源確保においては私も運営してる猫カフェのノウハウもあるので、大々的に資金を集めるための大きな猫カフェとしての案もあってのことです。もちろんその猫カフェの利用料だけの資金だけではまだまだ足りないし、グッズ販売など色々アイデアをいっぱい持っているので、それをより多く大きく展開していき収益を上げていくということも、本当に真剣に考えております。

**須山（座長）：**こちらの提言については、前回の会議で御了承いただいているんですけども、改めてこれでよろしいかお聞きしたいと思いますがよろしいでしょうか。

（異議なし）

それでは提言はこれで正式に採択とさせていただきたいと思います。久野さんどうもありがとうございました。

---

【鈴木講師ご紹介：事務局】

鹿児島大学において特にアジア全体の研究をされまして、インドネシアなど90回余り、また奄美大島のほうにも2013年からは58回も来島、現在は島嶼教育研究センター特認教授として活躍されております。本日はどうぞよろしく申し上げます

【鈴木講師講話概要】※詳細は別添資料参考

奄美大島には約1325種の在来植物、約263種の在来植物が記録されている。

1894年からの標本等の記録によれば在来種は減り、外来種は増加している。

世界遺産地域の植物相の約9.6%が外来種で無指定地は約16.7%で、遺産地域のほうが外来種は少ないが90種以上は存在する。

すでに侵入した外来種の根絶は困難だが、アブラギリなど遺産地域に大きな影響を及ぼ

す外来種については対策が必要。また新しく侵入する外来種のモニタリングが重要。

空き地をつくらないというのは外来種を増やすので非常に重要なポイントだと思う。

---

**座長：**鈴木先生どうもありがとうございました。外来種という言葉はよく聞くものの、実際どういうものなのか、どんな特徴があるのかは種ごとには理解しておりませんでしたので、今日の話、非常に勉強になりました。

**服部：**このような詳しい資料、面白い話を聞かせていただきましてありがとうございます。瀬戸内町へ用事があって行ったときに、ツルヒヨドリが何か所も発生してるところがあった。環境省と瀬戸内の土建組合が駆除したんですけれども、全部はとてもじゃないけど無理だって言ったんですが、それから1年以上たってみてもほとんど出てない。何か所か出ているところはあるんですけど、その前の規模に比べたら100分の1ぐらいに収まっていた。また、今日は早朝に船で奄美へ着いて、明るくなったからちょっと散歩をしていた。久しぶりにおがみ山の途中まで登ってきたんですが、入り口から全部アカギがものすごい勢いで蔓延っている。近所の家の方から出てきているような場所もあって、これは誰かが意図して抜けたのか、割と難しいところだなと思って見ていました。おがみ山って北側を向いた尾根になっていて、奄美では割と湿度が維持できるいい状況。先ほどお話のあったシダは外来種が少ない。場所によっては色々なシダが楽しく見れる、すごくいい場所。ただ、アカギがすごく邪魔になる。ずっと上がっていくとアカギがだんだん少しずつ減っていくが、これは他のものと混ざり始めたからだと思います。ガジュマルかなと思ったらゴムの木だったり、あとはヤシが山ほど出てきて、ヤシは暗くても出てくるんですよね。割と身近に外来種を放っておくところなるぞっていうモデルの公園みたいで、いいなと思って今日散歩してきました。

**鈴木：**本当にアカギが1番厄介。名瀬の場合は結構多い。島の人からすると、元々あっ

たからあまり外来種というイメージがなくて、故郷の木みたいになっているのではない  
かと思う。これからどうするのかというところ。アカギは雄雌があるので、例えば雌の  
木だけを切るということもあるのかなという気はしますが、難しい。

**服部：**瀬戸内町の職場がアカギの森になってまして。何とかしてやろうと思って何本か  
切り倒したんですけども、明るくなったところから一斉に芽吹き、一面がアカギ畑に  
なってしまった。土の中には山ほど種が混在されてるといふ厄介な植物でした。

**座長：**おがみ山の下のアカギはここからも近いので、皆さん御存じだと思います。それ  
から、名瀬で生まれ育った方にとっては、アカギって昔からある木で色々な思いが籠っ  
ていたりすることもあるのかなと思うんですよね。あそこのアカギって誰かが人為的に  
植えたわけで、今日のご欠席の久館長によりますと、永田川の有路を変更したときに、  
その記念として増えたという噂というか説があるそうですね。何らかの思いがあって植  
えたものっていうのは、外来種であってもなかなかその思いを解かないと切れないとい  
う部分があるのかなと思いました。

**常田：**アカギが外来種って思ってる人が少ない。住用に行くと、国道沿いもアカギだら  
け。笠利に行ってもそう。公園でアカギを残して、その公園では在来種を切ったりして

いる。何が目的かっていうことがはっきりしなくて、ただ、でかい木があるから残すという程度でやっていた。おがみ山はあれほど外来種は多くなかった。在来種も結構あった。ただ残念ながら島の人っていうのは在来種・外来種という概念がない。カンヒサクラも20mぐらいちょっと森の中歩いただけで、16本そこに入っていました。やれることを早くやっていかないと。大きくなってからは非常に抜きづらいんです。だから、早いうちに早いうちに手を打つ。人間がつくった制度で縛られている。マングースのようになつたら非常にまずいので、できるだけ早く早く。時間がたつと予算を使います。マングースが数十億です。時間も相当かかる。ということにならないように、まず手始めにおがみ山を改良する。あそこまでひどい山じゃなかったんですよ。もう今は登ると外来種だらけですね。

**鈴木：**僕はおがみ山は1回しか行った事ないんですけども、あそこはどういう扱いなんでしょうか。街中の公園であればどんな木を植えてもいいが、これ自然公園という扱いであれば、やっぱりそこに外来種があるのはいけない。モクマオウもこれだけ増えてしまうと、もう完全に根絶するというのは、実質的に不可能じゃないかというふうに思います。

**常田：**現在進行形として、例えば、もう外来種は持ち込まないとか、勝手に植えないと

か。例えば法律でも、終わったものは規制されて引っこ抜けないとか。人間が原因である以上は人間が対処できるはずだし、しなければいけない。

**鈴木：**法律の話ができましたけれども、今奄美に色々な植物を持ち込むというのは法律的にはほとんど規制がないと思うんですね。例えば自分の個人の土地に、外国から知らない植物をもってきて植えても、それはどうしようもないわけですよね。だからそれは法律的には自由なんだけども、やっぱり教育として、将来危険がありますよと。教育活動をするというのはもちろん非常に重要だと思います。ただし、持ち込んではいけないという条例を作るとなると、条例では種名を決めるので、世界中に40万種ぐらい植物の種類がある。リストを作るというのは難しいですよ。法律的に規制するというのはなかなか難しいので、モニタリングして変なやつを見つけたら、それを早めに処分することしか出来ないのかなと。

**濱田：**まず鈴木先生にお礼ですが、この資料を惜しみなく皆さんに提供していただき本当にありがとうございます。私は造園業を本業として従事しているので、この資料はサンプルかつ的を射ている。外来種でも、学校の思い出としてその木が残っていたりとかは各地にあります。簡単に伐採しようというのはなかなか難しい。大島高校の正門に入ってもあります。だから、そこはやっぱりもう外来種で結構繁殖力が強いから、どんど

ん伐採しましょうっていうのは少し違うんだろうなと思っていたところに、今日の先生の講話をお聞きして、非常に救われた思い。簡単に、これはだめだからこうしていきましょうというのではなく、色々判断して、自然遺産区域に拡大しそうにないんだったら、少しそのまま放置してもいいんじゃないだろうかという。外来種だから全てだめっていう一元的な考え方ではなく、影響がどれだけあるかというのを冷静に見ながら、判断していくべきじゃないかなと改めて感じさせてもらいました。それからもう一つが、外来種だけでなく在来種にも悪影響を及ぼすものがあるという御説明があったのも、おっしゃるとおりだと思います。龍郷の安木屋場っていう集落が、ソテツの山の群落で有名な景観をしているんですが、特に安木屋場トンネルの上のほう、そこがソテツの群落なんですけど、そこが一斉につる性植物でどんどん覆われていってるんですよ。ああなっていくと、ソテツの新芽というのは2年に1回吹くんですけど、その前につる性植物がどんどんソテツを覆っていったら、恐らく年数かけて枯れていくと思う。どうにかならないかと思って見てるんですが、まさに、あれは外来種じゃなく在来のつるものだと思うが、そういうところも改めて、今日の先生のお話聞いてて、そこもやはり問題提起として、外来っていうだけじゃなくて、在来でも悪影響を及ぼすものも改めて考え直すべきじゃないかという、みんなで周知出来たところじゃないかなと感じました。それと、芝生の土の中に種が入っていて、これは県本土のほうから恐らく芝を取ってきているんじゃないかなということ言われていたんですけど。前に県の仕事で芝を張る業務があった際、

芝生の土を落として搬入出来ますかと担当から相談があった。今日のお話聞いて、芝生を奄美では生産してないんで、生産しても事業にならないんですよ。それだけの需要、出荷っていうのも、とてもじゃないけど回らない。芝生を張るとなったら、もう島外から持ち込むしかないもんですから、その辺はどうしたらいいのかなど。いいアイデアが今出てきてない状態ですね。最後に、屋久島のアブラギリのお話、今日初めて聞いたので、そうなんだと思いましたけど、アブラギリも含めてちょっと屋久島の外来種の対応というんですか。例えばこんなやり方やってる。そういった話もあったらありがたいと思います。

**鈴木：**屋久島はアブラギリがもうあちこち増えちゃって、本当にもう駆除しきれない状態になって根絶出来ない。どうやって駆除するかっていうことも話しているんだけど、なかなかうまくいかない。奄美も将来的には屋久島みたいに増える可能性があるんじゃないかということで、世界自然遺産の価値を下げるという意味では、アブラギリが1番心配します。また先ほどの芝のお話ですが、持ってくるると必ず当然中にはいろんな種が入っているんで、結構問題だと思うんですよ。芝そのものが多分こちらにない種類なので、国内外来種という事になる。もともと芝に近い感じの植物があるので、それを植えるのはいいんでしょうけれど。あとアカギは、大体学校に大きいアカギがありますよね。子どもたちにすると思い出の木というか、記念樹みたいになっているので、あ

れを全部切りなさいっていうのは言えないので、非常に悩ましい問題だと思う。

**濱田：**芝生に関しては、今、お話聞いていてちょっと思い出したんですけど、種子を巻くという方法があります。芝生自体がもう外来種だってなってくると、もうそれでストップかけられると、もう多分無理なんです。芝生の種は商品としてあるので、種を持ってきて、芝生張りたいところに種をまいてっていう。かなり意識してやるとしたらそういう方法もあるのかなと。

**鈴木：**ですよね。だから芝生を作るのに、その種から作れば他の外来の種が入っちゃうこともないですよ。芝自体は外来の植物だが、そこからどんどん広がっていくというものではない。公園みたいなとこだけ芝生にして、問題ないと思うんです。それで種から作られるのならば、特に問題ないと思うんですね。芝生をもってきて、土の中に他の雑草の種が入ってしまうのが問題なので。

**濱田：**実際にやった実績もありまして、大和村のほうにグラウンドがあるんですけど、当時の村長から、きれいな芝をつくりたいが芝を張ったらイノシシにどンドンひっくり返される。何か方法ないかという相談があった。管理を一生懸命やってくれるんだったら、種子を撒けば1番強いし、きれいな緑のパークが出来ますと。それで種をまいた。

雨で流れたりとか、いろんなハードルがあったんですけど、向こうの行政はすごい頑張っていて、その種が発芽するまでは使用禁止にして、しっかり出来ましたね。要するに、栽培するんじゃなくて、実際に使うところに、そのまま整備の計画として、種をまいて行った。

**常田：**外来種の動物を入れることも防ぐんですよ。ヤンバルトサカヤスデも、実はある公園で植えた芝生で増えたんです。そういうふうにと考えると、外来種の生き物を入れないということもできる。自宅の庭にも芝生を植えたいと考えたりするが、ヤスデが入ってきたらって思うと何も出来ない。だから芝生の種を撒くのもいいかと思ったが、そうだったのですぐ根付くのでしょうか。

**濱田：**高麗芝だったら、そんなに難しくない。早く根付く。もっと強い芝もあるんですけど、これはちょっと粗目で葉っぱがなくて、人が座るとちょっとお尻が痛い感じになってしまう。

**座長：**芝の話だったんですけども、知恵を出せばいろんな解決方があるっていうお手本みたいなものなのかなと思いました。ですからアカギやアブラギリとか、今問題になっているような外来種についても、みんなで知恵を出していけば何かできるんじゃないかな

っていうふうに私は思いました。

**久野：**本当に素朴な疑問なんですけど、外来種の新聞記事とか県のリストとか見ると、猫とかいうのは、どうしても入らないんですよね。

**鈴木：**難しいですよね。完全に外来ではありますよね。けどもそれこそ明治時代、もっと前かな。そこから持ってきているわけですから外来種と言っていいのか。

**座長：**久野さんはノネコ・ノラネコ対策をやってらっしゃるんですけども、今日話し合った植物の例と同列に考えてみれば、やはり駆除あるいは別の方法というのを考えなきゃいけないのかなと思っていらっしゃるんだと思います。猫や犬って駆除の対象になるんでしょうか。

**鈴木：**根絶してしまうことが出来ないわけで、やっぱり何とか考えるしかないということかなんかと思いますが…中々いいアイデアが浮かばないです。

**服部：**植物で言ったら、例えば稲は麦が野生化したようなイメージなんですよ。でも猫を外来種と並べて記載するのは、不自然な感じがあるのかなっていう気がします。

**久野：**そうですね。猫問題、ノネコ問題の難しさを新たに再確認したのかなど。根絶は難しいので、共存する道を今みんなで頑張っているのかなって感じがしています。

**座長：**猫と人間ってコンタクトが深過ぎて、あまり外来種とか在来種とかいう分け方自体してこなかった部分があるんですよね。だから話題になっている植物と同じように考えてしまうと難しくなる。

**常田：**猫犬の問題なんですけど、ペットである以上は人間が責任を持たなきゃいけないという問題は歴然としてあるので、これもまた人間の問題なんですよ。そのことはちゃんと分かった上で行動しないと。一時期は山の上でかなり犬も見たし、囲まれたこともあって命の危険を感じたこともある。猫も多いときには相当見てました。だからそれを何とかしてくれと言ったことも何度もあるし、ただ、人間の生活圏にどうこうというよりは、やっぱり駄目なものは駄目で、駆除って形じゃなくて、久野さんたちがやっている捕獲をして、飼う人を見つける。これ1番いいやり方なんですよ。要するに、猫が悪い犬が悪いじゃなくて、存在してる場所が間違ってますってだけのことなんですよ。存在するべき場所をちゃんと考えてあげないと。

**恵：**外来種っていうのでハイビスカスが上がってきているなどと思ひまして。よくハイビ

スカスは外来種だから切っ飛ばしてしまえという話もありますが、私事で動画を撮っております、観光のお客様からは、動画を撮影するときにハイビスカスはぜひ使ってほしいと。南国といえばハイビスカスというイメージが観光客の方にはあって、そこから奄美へいらしてもらって、もっと深く知っていただけたらいいという形で、そういう動画も作っております。今日鈴木先生の資料を拝見させてもらって、やはり、遺産地域の中にもうこれ以上外来種を入れない。それがすごく大事なことだになってというのが書かれてあったのですごく安心いたしました。できることからやっていけば少しずつ減っていくのではないかと思いました。

**鈴木：**ハイビスカスは非常に南国的なイメージで非常にいいですけども。ハイビスカスが奄美にあっても、ある程度は何ら問題ないと思うんですよね。ただ、何か遺産地域内にあたかも自然に入ってるような感じであるものは、ちょっと誤解を持たれるので避けたほうがいいんじゃないか。ハイビスカス自体はそんなに、普通の道端にあるのはきれいだし問題ないと思います。

**常田：**ハイビスカスも種が悪いんじゃないくて、存在する場所を間違っているんですよ。さっきのネコイヌと一緒に。例えば別に大浜海浜公園に植えたりとか、そういったのはいいじゃないですか。そこを目的に観光客が来てるわけで、南国のムード。自然の中に

植えるから違うわけで。

**座長：**今のやりとりを拝見しておりますと、世界遺産地域とそれ以外の地域で対応が違うのかなと思いました。この世界遺産地域はかなりきつく、外来種が入り込まないようなやり方。それ以外の地域については、もちろん希少種なんかもあるみたいなんですけれども、ある程度人間の生活に歩み寄った、協働の在り方みたいな感じになってくるのかなと。それから先生の資料の中で、主な外来植物の紹介。これ、結構使えるんじゃないかなと。影響の大きな外来種というのはどんなもので、影響の少ないものはどんなものか。植物種によって、ある程度メリハリをつけた対策を考える必要があると。色々悩ましい種は確かにたくさんあるというふうに思うんですけども、何か一つの指標になりそうなものをいただいたなという感じがしております。

**栄：**本当に具体的に御説明いただきまして、この載っている植物が、日頃から見ているような植物、身近な植物が多いなという気がしましたので、これも外来種だったんだなと、改めて認識する機会となりました。先ほどからありましたけれども、この外来種とかの専門家ってたくさんいらっしゃるんですけども、データ化されてると思うんです。子どもたちや教育の現場からとか、やっぱり身近な市民の皆さんが知るところの場を増やしてほしいなというふうに思うところなんですけども。ガイドラインや手引き本みた

いな。いろいろチラシとかには、環境省とかいろんなところが持ってはいるんですが、ちょっと一元化したものが見当たらないっていうのがすごく認識があるもんですから。テキストみたいなもので作っていただけるとすごくいいかなあというふうに思いましたので、ちょっとまたそれは提案ですが。

**鈴木：**確かにね、普通の方が外来種というイメージしてないものが、結構外来種なものですから、要するに外来種と在来種、どこが違うってあんまりないんですよ。歴史を調べないと分からないので、パッと見てもよく分からない。パンフレットとか図鑑みたいなものがやっぱりないといけないんで、将来的に何とかできればいいなど。

**常田：**先生へ一つお伺いしたいんですけど、ハゼノキって外来種なんですか。

**鈴木：**この辺のやつは自生だと思います。内地のほうだと、ハゼと山ハゼがあるんですよ。内地ですとハゼは国内外来種なんですけども、この辺はハゼの木しか元々なくて、山ハゼはない。

**常田：**私が聞いた話だと薩摩藩が持込んだって聞いて、それでロウをつくるように持ってきたと。なのでちょっと怪しいんじゃないかと思った。

**鈴木：**ただハゼは色々植えているので、多分ハゼの中でもロウがたくさんとれるように、色々な品種、たくさんとれるやつを選んで、それをまたあちこち植えていると思う。厳密に言うと植えたものが混ざっていったが、一応は自生だと思っんです。ただ元々の自生でもどんどん増えちゃって困るやつもありますよね。

**久留：**先生に先ほどお尋ねしたんですけど、1番私たちの身近にあるかしゃ餅の月桃の葉っぱなんですけど、私が使っているのは月桃ではなくて、幅の広いむちがしゃというものなのでそれをお聞きしましたら、それがクマタケランなのか、アオノクマタケランなのかというところ。月桃は外来種なのでしょうか。

**鈴木：**あの仲間はですね、月桃とクマタケランとアオノクマタケランの似たような3種類があるんですよ。月桃は外国から持ち込んだもので、そこから野生に入っていった。アオノクマタケランは元々奄美にあったもの。そこに月桃が持ち込まれた。月桃とアオノクマタケランは愛称がよく、お互いに株を媒介すると種ができる。そこで育ってきたものがクマタケランということになります。だから、クマタケランは雑種ということになる。月桃が持ち込まれなければ、クマタケランという植物はなかった。

**座長：**外来種って、これは別に自然界だけの話じゃなくて、持ち込んだのはそもそも人

間なわけですし、私たちの生活に実はかなり深く入り込んでる。これを排除するとか受け入れるとか、あまり利率背反的な議論をしてはいけないのではと、今日のお話を受けて思ったところです。外来種につきましては、このプラットフォームでも今後ちょっと息長く、議論を続けていきたいと思います。その上で、論点を整理して、外来種に対してどう取り組んでいくべきかという提案・提言をできれば良いかなというふうに思います。今後、このプラットフォーム年度内はあと2回だけなんですけど、少し長い射程で捉えていきたいなと思います。

終了時間：17：00 ※会議時間3時間

次回会議：1/21（土）14：00～@奄美市役所5階会議室